

日本歯科医学教育学会 教育システム開発賞歴代受賞者

回数	年度	受賞者	所属	発表題名	発表大会名
1	平成14年度	大槻 昌幸	東京医科歯科大学大学院 う蝕制御分野 助教授	窩洞形成シミュレーションシステムの開発 第4報 う蝕情報の追加	2002年度 日本歯科医学教育学会 学術大会 (2002年7月12日発表)
2	平成15年度	河田 英司	東京歯科大学 歯科理工学講座 助教授	SGDを取り入れた「情報科学」	2002年度 日本歯科医学教育学会 学術大会 (2002年7月12日発表)
3	平成16年度	魚島 勝美	新潟大学医歯学総合病院 教授	新潟大学歯学部における総合模型実習 の試み	2004年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2004年7月2日)
4	平成17年度	木下 淳博	東京医科歯科大学歯学部 口腔保健学科	コンピュータによる歯科臨床 シミュレーション教育システムの開発	2005年度 日本歯科医学教育学会 学術大会 (2005年7月8日発表)
5	平成18年度	吉岡 隆知	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 口腔機能再構築学系 摂食機能保存学講座 歯髄生物学分野 助手	医歯学シミュレーション教育システムの 改良-作成教材のレビューシステムおよび ネットワーク対応について-	2006年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2006年6月16日)
6	平成19年度	大山 篤	東京医科歯科大学歯学部 助教	歯学科4年生が臨床実習中の6年生に 教わる臨床体験実習プログラムの開発	2007年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2007年7月6日)
7	平成20年度	原 哲也	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 咬合・有床義歯補綴学分野 准教授	学生のリアルタイム評価を応用した 授業内容改善FDシステムの開発	2008年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2008年7月11日)
8	平成21年度	荘村 泰治	大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座 教授	VR触力覚を用いた歯科ハンドスキル シミュレーショントレーニング(第3報) システム概要と実習教育への応用	2009年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2009年11月6日)
9	平成22年度	須永 昌代	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 助教	術者目線のオリジナル3Dムービー作成・ 供覧システムの開発	2010年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2010年7月23日)
10	平成23年度	羽村 章	日本歯科大学附属病院 総合診療科 病院長・教授	新たな歯科臨床実習用ヒト型患者ロボット シミュレーションシステム(SIMROID®)の 開発	2011年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2011年7月16日)
11	平成24年度	菅沼 岳史	昭和大学歯学部 歯科補綴学講座 准教授	医療面接スキルに対するバーチャル ペーシェントシステムの有効性	2012年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2012年7月20日)
12	平成25年度	受賞者なし			
13	平成26年度	長島 正	大阪大学歯学部附属病院 口腔総合診療部 准教授	臨床実習・臨床研修連携ログブックの 電子化 第4報 臨床実習と臨床研修の 連携	2014年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2014年7月4日)
14	平成27年度	小田 陽平	新潟大学大学院 医歯学総合研究科 組織再建口腔外科学分野 助教	診療参加型歯科臨床実習における web公開型eポートフォリオ -第2報 運用実績とシステム改善について	2015年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2015年7月10日)
15	平成28年度	片岡 竜太	昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 歯学教育学部門 教授	3大学共通の3年間にわたる能動的 教育システムの実施とその効果	2016年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2016年7月1日)

日本歯科医学教育学会 教育システム開発賞歴代受賞者

回数	年度	受賞者	所属	発表題名	発表大会名
16	平成29年度	則武加奈子	東京医科歯科大学 歯学部附属病院 歯科総合診療部 助教	歯科学生と歯科衛生学生が診療参加型 臨床実習で協働する新しい多職種連携 実習の開発と教育効果	2017年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2017年7月28日)
17	平成30年度	鈴木 昌	東京歯科大学市川総合病院 救急科 教授	高機能シミュレーターを使用した偶発症 対応実践型教育プログラムの開発	2018年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2018年7月27日)
18	令和元年度	楊 秀慶	日本歯科大学附属病院 小児歯科 講師	可動式側方脱臼歯整復模型の教育効果	2019年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2019年7月19日)
-	令和2年度	一般演題を誌上発表としたため実施せず			